

科目名	施設園芸学	教員名	おやま はつえ 小山 初枝	開講 コース	作物生産 花 園 芸	1 年 次	後 期
<p>・ 目的と内容</p> <p>人口増加に伴う食料生産不足。食料・栄養の周年供給、安定供給を可能とする上で、施設栽培は農業の中で非常に重要な位置を占めている。また、施設園芸は、現在の農業の中で、最もゼロエミッションに近い農業であることも確かである。本講義は、蔬菜の施設栽培生産を中心に、農業における施設の役割を認識し、実際栽培でどのように利用していくのかを講義する。最終的に、現在の施設園芸が抱える問題が生じた原因と現在の姿、そして、その解決方法を含め、今後の農業の中で施設をどのように利用すべきかを考えてもらいたい。施設は狭義での施設、ハウスだけで無く、広義の施設(べたがけ、トンネル、養液栽培等)もとりあげる。</p>							
<p>・ 授業計画 [単位数：2 単位、授業週数：15 回]</p> <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の歴史と展望 2. 施設・設備の種類・特徴と活用法 3. 被覆資材の種類・特徴と活用法 4. 施設内環境と管理技術(1) 光 5. 施設内環境と管理技術(1) 光 6. 施設内環境と管理技術(2) 温度 7. 施設内環境と管理技術(2) 温度 8. 施設内環境と管理技術(3) 湿度 9. 施設内環境と管理技術(3) 湿度 10. 施設内環境と管理技術(4) 換気 11. 施設内環境と管理技術(5) CO₂ 環境 12. 施設内環境と管理技術(5) CO₂ 環境 13. 施設栽培の現状と将来 14. 施設栽培の現状と将来 15. テスト 							
<p>・ 講義の進め方</p> <p>机上の講義に加えて、実際の施設・設備をできる限り実物を利用し理解を深めてもらう。施設の構造を知らないことを前提に話を進めるので、かなり基礎的な内容から始めるが、暖房費や施設導入に必要な予算・維持費の計算など、現場に則した内容も取り入れている。毎回講義の終わりに復習と出席の確認を兼ねてミニテストを行う。</p>							
<p>・ 試験と成績評価</p> <p>毎時間のミニテスト、期末テストにより総合的に成績を評価する。</p>							
<p>・ 担当教員から受講生諸君へ</p> <p>施設栽培の栽培面積は少ないですが、人間の栄養摂取、食料の安定供給、特殊栽培(花、機能性食品等)において大きな役割を果たしています。また、稲作農家の経営においても、春夏の収入源を得ることで、経営の安定化、リスク分散など、経営的にも意味のある分野だと思っています。北海道では施設栽培は軽視される傾向にありますが、その重要性を認識してもらいたいと思っています。一方、世界的に農業に対する環境基準が厳しく設定される中で、施設のマイナス、プラスの両面が取り上げられるようになってきました。将来の農業をグローバルに考えつつ、施設栽培の今後の位置づけについても考えてみたいと思っています。大学の授業ですので、決して答えの決まっているものばかりではありませんが、いくつかの事例を挙げつつ、私も一緒に考えていきたいと思っています。</p>							
<p>・ 使用教材</p> <p>教科書：なし</p> <p>参考書：『施設園芸ハンドブック』(日本施設園芸協会)</p>							